

平行在来線問題で交流図る

水戸鉄関労が視察学習会



国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENVビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂本公則

2015年3月14日、金沢から長野間の北陸新幹線が開業し、その一方で分離された並行在来線は第三セクター化されました。(直江津〜妙高高原)
国労はこれまで、政策提言「並行在来線の維持活性化に向けて」を發表し、2013年3月には「北陸新

幹線と並行在来線問題を考えるシンポジウム」を開催、国民の交通権を保障する立場から並行在来線の基本的役割を重視、国民の足を守り活性化させ、引き続き国への要請をはじめ、地域住民や市民団体と一体となり、さらに運動を強化していく必要があります。

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！

点検プロジェクト会議

5月19日、第4回職場総点検プロジェクト会議を地方本部で開催しました。

交渉経過として、①新規採用者配属についての勝田車両センター内の入換車両の脱線について報告し、議題では、常磐線の不通区間について小高、原ノ町間復旧工事及び相馬、駒ヶ嶺間復旧工事の進捗と組合員の状況報告を受けました。また、会社説明以降いわき、原ノ町間の移動ルートについて各職場では、会社より「業務指示はしない、皆さんでルートは決めて下さい」という中で、当初空線量の低い川俣〜飯館ルートを通行し

住民の足を守るの闘い

北陸新幹線の開業に伴い、信越本線豊野〜直江津間が、しなの鉄道と、えちごトキめき鉄道(妙高はねうまライン)に委託がされました。国労としても、並行在来線問題として、地元住民の足を確保する立場から「安全・利便性」を課題とし議論を巻き起こしてきているのが現状です。

今回の視察にあたり、新潟地方本部上石委員長をはじめ、田沢書記長、新潟県支部から2名の仲間(えちごトキめき鉄道)が参加をして、新潟地本としての受け入れ体制を取っていたいただきました。交流会の中では、2014年9月に会社から北陸新幹線延伸と並行在来線経営分離に伴う業務体制の見直しについての提案があり、総数180名に及ぶ第三セクター化への委託合理化でした。2013年頃から希望する条件が示されない中、会社はその3年先をどうするか、個人アンケートにも明らかにしないうえ、結果的には人事が決まっていたから説明がされなかった、労働組合無視の内容でした。今後、出向者の会議を開催し職場要求をまとめ、会社に提出して改善に努めていく事にしています。出向会社相手の交渉となると窓口の問題もあり、今後の課題になっています。出向協定に感させられました。